

東部振興局「なつほのか」便り No. 16



令和7年産なつほのか実証圃の 収量調査を行いました！

令和7年産の調査圃場の収量調査を行いました。収量は昨年と比べ約8%増収となりました。今年は多照・高温の影響で白未熟粒の発生が懸念されましたが、実証圃では昨年と同程度(昨年対比▲0.1)となりました。

一方、今年は梅雨時期が短く、梅雨明け以降も雨が少なかったことから多くの地域で水不足が発生しました。実証圃でも水不足による充実不足が発生し、加えて一部圃場では病害虫被害により収量が減少した圃場もありました。

調査圃場	移植期 月.日	出穂期 月.日	成熟期 月.日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²
杵築市 山香町	5/25	8/6	9/8	88	19.4	440
国東市 国見町	5/18	8/4	9/8	77	21.9	310
国東市 安岐町	6/18	8/16	9/25	85	20.8	407

3地点で調査
したよ！



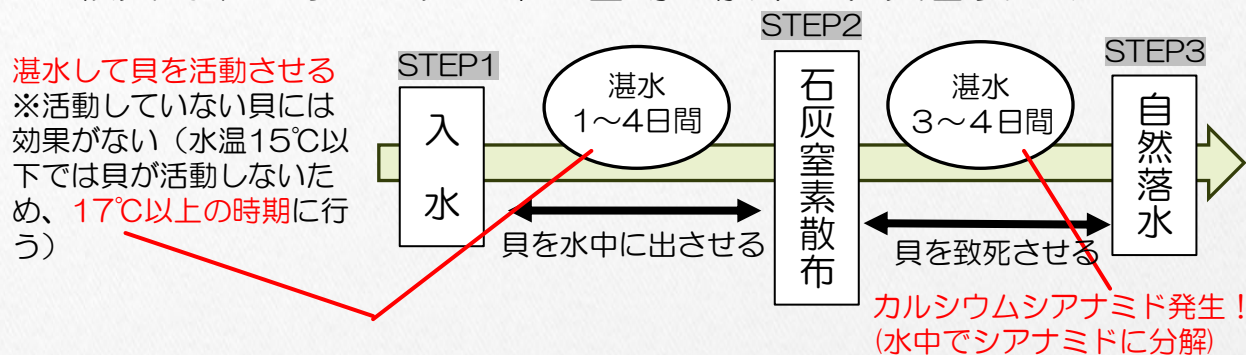
調査圃場	玄米重 kg/10a	千粒重 g	白未熟粒(粒数割合%)			
			乳白粒	基白粒	腹白粒	合計
杵築市山香町	732	21.7	0.1	0.2	0.2	0.5
国東市国見町	311	20.3	0.3	0.4	0.2	0.9
国東市安岐町	786	22.6	1.2	0.3	0.2	1.7



秋期・冬期のスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

1. 秋期の石灰窒素散布

→殺貝効果のある石灰窒素を圃場に散布し、貝密度を下げる



時期やポイントと注意点

- ・ 水稻収穫後、水温17℃以上の時期に 3～4cm水を張り、1～4日放置して貝を活動にさせる。
- ・ 石灰窒素20～30kg/10aをむらなく散布し、3～4日湛水を保ち、貝を致死させる。（シアナミドが貝を致死させる）
- ・ 田面水は用水路に流さずに、自然落水させる。

2. 冬期の耕うん

→厳寒期前のロータリー耕うんによりスクミリンゴガイを物理的に破壊、寒風にさらして貝密度を下げる。

時期と方法

- ・ 土壌が乾燥して固い厳寒期（1～2月）に、トラクターの走行速度を遅く、PTO回転を速く（ロータリーを速く）し、土壌を細かく耕うんする。

注意点

- ・ 未発生圃場への貝の持ち込みを防止するため、使用後のトラクター（爪やアタッチメントなど）は洗浄して次回使用する。